

1. 学校名

水俣市立袋中学校

2. 活動テーマ名

袋を愛でる（ふくろをめぐる）

3. 実践の概要・ねらい

現在の海は、どのような状態であるのか。なぜ、この海の豊かさが保全されてきたのか。生態系をつないでいる水と空気に着目し、海、山、川を地域の人々と歩き、その様子を観察するとともに、地域の人々から生態系保全のヒントを得たい。その結果を記録していくことや地域の中核となって具体的な海の保全活動を企画実施することをとおして、生徒たちの精神的な成長を促すとともに、故郷の自然を護る活動を展開したい。また袋地区の自然環境を感じ、自分たちの生まれ育った環境に自信を持たせる取組として「袋を愛でる」をキーワードに活動を組み立てた。1年生では、海につながる地域の川についての学習、2年生では、現在の海の状況について各方面からの情報を提供してもらい、3年生で水の循環と山・川・海のつながりと我々人間の関わりを感じる取組を行った。

4. 実践計画

5月 活動の詳細の決定

7月 下見調査、関係機関への呼びかけ

9月 全体説明、各学年学習開始

10月 3年生海学校、2年生水俣市の環境への取組、1年生水俣病学習

11月 3年生山学校、2年生水俣市の環境への取組、1年生水俣病学習

12月 3年生川学校、2年生水俣市の環境への取組、1年生水俣病学習

2月 まとめ、海岸、河川の清掃活動

3月 記録集作り

5. 今年度の実践

○1学年の取組「川のプロプログラムとしての取組」

袋地区には大きな河川はないが、地域を流れる小河川が、農業用水・生活用水として昔から活用されている。ここでは、まず校区内にある冷水（ひやすじ）水源や袋川を実際に見て回り、その後、川の水質調査を行った。

・袋川・冷水川を探検しよう

貯水池を水源として流れ出る袋川を上流から下流に向かって散策した。魚（ハヤ）、モクズガニなどが観察できた。また冷水（ひやすじ）水源から流れ出る水が各家庭でも利用されていることも確認した。

・川の水質と川にすむ生物を調査しよう（講師：本校理科教諭）

袋川の2地点で、水生生物の採集、パックテストや透視度調査などの水環境調査を行った。この地域の水質は、熊本県の定める5段階評価の2段階目「親しめる水環境」であったが、家庭雑排水の影響が考えられ、今後標本地点を増やし調査することで、水環境に関する各家庭の取組を考えるきっかけ作りができると思われる。また、地域内の他の3河川（冷水川、茶工場川、境川）についての展開も考えら



れる。

○2年生の取組「海洋環境に関する取組」

さまざまな講師からの講話を基に、袋湾を含んだ八代海の現状や地下水、漁業などの産業との関わりについて学習した。

- ・袋地区の漁業について（講師：地元漁師 杉本肇さん）

袋湾、茂道湾の特徴を、地形や海中での湧水等について説明していただくとともに、実際に袋地区で行われている漁業、シラス漁、カキの養殖などについて教えていただいた。



- ・八代海の現状と熊本の地下水について（講師：熊本県環境立県推進室 峰 武史さん）

熊本県内の海と固有種、地下水と海の関係についてお話しいただいた。

- ・干潟の役割について（講師：国立水俣病研究センター 森 啓介さん）

干潟の役割と環境省指定の「袋湾および西浦半島周辺の重要湿地」について説明していただいた。

- ・水俣魚市場で取り扱われる魚たち（講師：水俣漁協 中村雄幸さん）

水俣魚市場で取り扱われるさまざまな魚について、実際に魚を見せていただきながら説明を受けた。

○3年生の取組「袋を愛でる：NPOと連携した環境学習プログラムの取組」

第3学年については、海学校、山学校、川学校というフレームで水の循環を基に地域の環境について学習した。

- ・海学校

袋湾で生徒自身が、実際にスキューバダイビングを行い、海底の状況や堆積物、生物の様子を観察した。専門のインストラクターが1対1対応で生徒の体験をサポートした。また、海岸部の生物調査を行い、生物の生息状況や海岸の状態を観察した。2年生が学習した内容を実際に現地で観察することで、地域環境への愛着が生まれたように思われる。



- ・山学校

植物の働き、地層や湧水等雨水がいかにして地表にもたらされるのかを学習した。植物の二酸化炭素吸収量の実験を行うとともに、校区内でみられる崖からしみ出す水が、電気伝導度から地下水であることを確認した。



- ・川学校

地域の方たちに案内をお願いしてフィールドワークを行い、我々が実際生活している川があるエリアで先人たちが生活と一緒に環境保全を行ってきたのかを聞き取った。2コースに分かれ実施し、得られた情報は、その後交換発表を行った。

生徒たちは、この学習をとおして、故郷の海に対して高いプライドを持つことができた、と同時に、地域の人々と接触を持つ活動を行うことで、地域に対する絆が生まれ、環境保全の原動力となる地域を大切に思う気持ちが育まれたと思われると考えられる。

6. 主な連携機関及び

生徒会を中心として海岸や河川の清掃、環境保全のための取組を企画し、地域に対して呼びかけ、故郷の自然を護る活動を啓発する。そのため、生徒会、地域各自治会長、有識者、PTA、袋湾を管理する企業などを構成メンバーとする、袋湾の環境保全を目的とした「袋メーデル会議」を行った。今年度は「海の清掃活動」、「袋湾重要湿地看板設置」を行った。この活動を通して、袋湾がいかに貴重で大事な地域資源であるかを地域の人々に自覚していただき、八代海で唯一残されている干潟である袋湾の環境保全活動を目指している。



3年生 「袋を愛でる」(ふくろをめでる)
実践のねらい

本校区には、本年6月に環境省の重要干潟500選に選ばれた袋湾、源流から河口までの3本の川と山がある。袋湾は、生活エリアから至近距離にあるにも関わらず、絶滅危惧種が多数生息する。海は、人々の暮らしを反映した結果である。現在の海は、どのような状態であるのか。何故、この海の豊かさが保全されてきたのか。生態系をつないでいる水と空気に着目し海、山、川を地域の人々と歩き、その様子を観察するとともに、地域の人々から生態系保全のヒントを得たい。その結果を記録していくことや地域の中核となって具体的な海の保全活動を企画実施することをおして、生徒たちの精神的な成長を促すとともに故郷の自然を護る活動を展開する。

主な連携機関と内容
<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人「植物資源の力」 ・水俣市教育委員会 ・地元企業 (環境教育全般のサポート) <ul style="list-style-type: none"> ・地域自治会 (環境保全活動)

○時数 6月～3月 総合的な学習の時間 (14時間)

○関連 理科、生徒会活動

- 目標
- (1) 海学校、山学校、川学校というフレームで地域の環境について学習することで、人と自然のつながりについて知り、人間の生活活動が与える影響を考えさせることができる。
 - (2) 実施に地域の自然環境に振れる体験活動を行うことで、自然に対する敬愛の念を育み、身近な自然環境の保全活動への意識付けと地域への啓発活動を行うことができる。
 - (3) ふるさと水俣の良さを知り、自分の故郷、さらには自分自身のことに誇りを持って語ることでできる人創りを行うことができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動						「オリエンテーション」 「袋を愛でる」をテーマにふるさと水俣を考える	「海学校」 地元の海で体験ダイビングを行う	「山学校」 山の機能・地下水の働きを体感する	「川学校」 地元の方を案内人として人と地域の川の関わりを知る			
探究的な活動							「干潟の生物調査」 袋湾に生息する生物調査を行う		「川の環境調査」 袋川の生物指標による環境調査を行う		「まとめ」 これまでの体験を絵地図にまとめる	
実践的な活動		環境保全会議 「袋めデー会議」		「海のクリーンアップ作戦」 海岸清掃活動の実施			環境保全会議 「袋めデー会議」			干潟保全の看板設置 「めデー会議」との連携		「干潟のクリーンアップ作戦」 袋湾清掃活動の実施